

# ★ 42<sup>th</sup> ABILITYMPICS

アビリンピック

第42回

## 全国障害者 技能競技大会 報告書

WE ARE!!  
我々を見よ

### 障害者ワークフェア2022

～働く障害者を応援する仲間の集い～



- 洋裁
- 家具
- DTP
- 機械CAD
- 建築CAD
- 電子機器組立
- 義肢
- 歯科技工
- ワード・プロセッサ
- データベース
- ホームページ
- フラワーアレンジメント
- コンピュータプログラミング
- ビルクリーニング
- 製品パッキング
- 喫茶サービス
- オフィスアシスタント
- 表計算
- ネイル施術
- 写真撮影
- パソコン組立
- パソコン操作
- パソコンデータ入力
- 縫製
- 木工
- 物流ワーク
- O A機器等メンテナンス



アビリンピック  
マスコットキャラクター  
アビリス

## はじめに



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

理事長 湯浅 善樹

「アビリンピック」の愛称で親しまれている全国障害者技能競技大会は、障害のある方々が日頃培った技能を競い合うことにより、職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々が障害のある方に対する理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的とする技能の祭典です。

第42回となった今回の大会は、1972年(昭和47年)開催の第1回大会から50年目の節目に当たる大会となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じた上で3年ぶりに有観客で開催し、全国から集結した参加選手の高い技能を会場で直接ご覧いただくことができました。

今大会では、全国から362名の選手にご参加いただき25技能競技種目を実施するとともに、技能デモンストレーションとして「物流ワーク」、「OA機器等メンテナンス」を実施しました。また、「障害者ワークフェア」を3年ぶりに開催し、93の企業・団体の皆様のご協力を得て、障害者の職業能力及び雇用に関する展示・実演を行うとともに、ステージでは出展者紹介や障害者雇用に関するセミナーも実施しました。

3日にわたり開催された今大会では、技能競技、技能デモンストレーション及び障害者ワークフェアの様子を会場だけでなく、会社やご家庭でもご覧いただけるよう、動画配信も行いました。参加選手の技能競技に懸ける熱意や、技術の高さ等をご覧いただいた方々からは、「一生懸命な作業に感心しました。」、「努力の成果がよくみられました。すばしかったです。」、「3年ぶりの有観客で盛り上がりを感じました。」などの感想をいただいたところです。

また、会場では前回大会に引き続きアビリンピックマスコットキャラクター「アビリス」が開閉会式に登場するなど大会を大いに盛り上げてくれました。

参加選手の皆様には、今大会に参加し、競技に全力で臨んだことを誇りとして、職場や地域などで今後も一層活躍されることを期待いたしますとともに、今大会の開催にご協力をいただいた厚生労働省、団体、企業、関係機関及び関係者の方々に対して心からお礼を申し上げます。

### 序

はじめに .....	1
目次 .....	2
開会式 .....	4
技能競技 .....	5
技能デモンストレーション .....	5 6
障害者ワークフェア2022 ～働く障害者を応援する仲間の集い～ .....	5 8
閉会式 .....	6 0

### 第42回全国障害者技能競技大会

#### I 概要

1 実施内容 .....	6 3
2 運営に当たっての支援 .....	6 5

#### II 開催準備

1 技能競技・技能デモンストレーション .....	6 6
2 障害者ワークフェア2022 .....	6 9

#### III 開催の状況

1 技能競技・技能デモンストレーション .....	7 0
2 障害者ワークフェア2022 ～働く障害者を応援する仲間の集い～ .....	7 2





## 資料

### I 第42回全国障害者技能競技大会関係資料

1	開会式・閉会式挨拶等	74
2	表彰者数一覧	77
3	表彰者名簿（賞別、競技種目別）	78
4	技能競技種目別参加選手名簿及び技能デモンストレーション職種別参加者名簿	83
5	技能競技種目別・都道府県別技能競技参加選手数一覧	92
6	技能競技種目及び技能デモンストレーション職種別・ 障害別・年齢区分別技能競技参加選手等数一覧	94
7	手話通訳者及び要約筆記者配置数一覧	95
8	技能競技種目及び技能デモンストレーション職種別実施時間一覧	96
9	技能競技種目別使用機器等一覧表	97
10	第42回全国障害者技能競技大会実施要綱	100
11	第42回全国障害者技能競技大会における 新型コロナウイルス感染拡大防止のための具体的な措置	108
12	各種委員会委員名簿	119
13	技能競技種目別専門委員等名簿及び 技能デモンストレーション職種別実施スタッフ名簿	120
14	技能競技実施機器及び参加者景品等の協賛企業等	125
15	障害者ワークフェア2022 ～働く障害者を応援する仲間の集い～ 出展者一覧（93）	127
16	障害者ワークフェア2022 ～働く障害者を応援する仲間の集い～ 出展募集要項	130
17	アンケート結果	138

### II 全国障害者技能競技大会統計資料

1	全国障害者技能競技大会の沿革	142
2	全国障害者技能競技大会実施要綱の変遷	143
3	技能競技種目別参加選手数の状況	146
4	都道府県別参加選手数の状況	148
5	技能競技種目別受賞者数の状況	150
6	都道府県別受賞者数の状況	156
7	大会別開催期間・会場一覧	160
8	障害者ワークフェア実施状況	161

II	新聞等掲載記事	162
----	---------	-----



### 会場・開会式・選手宣誓(Web配信)





### オリエンテーション・工具確認





■ 参加選手数 3名

■ 協賛企業等

**JUKI** JUKI販売株式会社

公益社団法人全日本洋裁技能協会

競技課題は、薄手ウールを使用したオーダー仕立ての「オーバーブラウス」の製作です。選手には粗裁ちした布地が支給されますので、競技では裁断→芯貼り→印付け→本縫いミシン→アイロン→ロックミシンの順で作業を進めます。接着芯はしっかり貼り、前身頃丈の長さ、袖付け、衿付けが左右対称であることが重要です。オーダー仕立てのため、裾などの折上げ(ヘム)は手まつり、ボタンホールも手でかかります。





## 講評

主査 佐藤 富子

第42回競技大会は11月4日(金)～6日(日)に千葉の幕張メッセで、技能五輪全国大会と同時に開催されました。

課題は、テーラーカラー・長袖・パッチポケット付きオーバーブラウスの制作で、生地は薄手ウール、時間は午前中3時間半、午後2時間半の6時間に設定致しました。

選手は3名の参加で、顔ぶれは、前年度銀賞で過去に国際大会の経験がある人、過去に銀賞を1回取られた人、もう1人は受賞歴はありませんが、3回目の挑戦者で相当努力された人でした。今回は3人ともさらに技術を磨き非常にレベルが高く、3人の得点が接近すると想定していました。

しかし、結果は、受賞歴のなかった人が銅賞、前年度銀賞の人が努力賞という結果になりました。

今年は国家検定の課題変更に伴い、型紙を生地の上に乗せて針で型紙を押える作業のところまでを前日に行いました。そのため、当日の裁断は多少時間短縮になりましたが、作業がし易いように設置してあった裁断台、ミシン、ロックミシンを移動したため作業に無駄が目立った人もいました。

アイロンを裏から掛ける場合は当て布をしません。アイロン使いで出来栄に差が出ます。アイロンの扱い方を工夫して、掛け過ぎないようにしましょう。

時間内に仕上げるためには、事前に衿・袖・ボタンホールの付け方などを正しくマスターして、綺麗に縫えるよう練習をした上で本番に臨みましょう。

講評については、各選手ともに真摯に耳を傾け、熱心な質問もたくさんありました。

「今年は練習不足でした。」と反省しつつ、次の目標に向けて意欲を示されていました。今回の反省点を踏まえ、次回もご活躍されることを期待しております。

末尾になりますが、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の皆様には大変お世話になり、今回も競技大会を無事に務めることができました。

皆様に心より感謝申し上げます。





■ 参加選手数 1名

競技課題は、「花台」の製作です。木製の家具は、構造的に大きく分けると、たんす、食器棚などの「箱物家具」と、椅子、ソファなどの「脚物家具」に分けることができます。競技課題の「花台」は、「箱物家具」と「脚物家具」の特徴的な構造である「板と板の接合」や「角材と角材の接合」が作業の中に含まれています。のこぎり、のみ、かんなどの手工具や木工機械を駆使して、図面に基づき正確で見栄えの良い作品を完成することが求められます。





## 講評

主査 小山 真子

家具職種の競技課題のレベルは、技能検定「2級家具製作（家具手加工作業）」課題と同程度となっています。競技課題は、板材と板材の接合による「甲板」と角材と角材の接合による「脚部」から構成される「花台」を製作します。

今もなお続くコロナ禍の中、今年度の大会では、1名の選手が参加し厳正な審査の結果、銅賞の受賞となり、次にあげる3点が評価につながりました。

1点目は、時間内に完成させる強い意志が終始一貫し持続したこと。2点目は、加工は荒削りであるが基本ができており、ミスが生じても気持ちの切り替えが早く、仕上がりに影響が少なかったこと。3点目は、脚部の接着・組み立て時に、全体の歪みを現寸図のシナベニアの直角を利用して、一瞬にして直したのは実に見事でした。その場に居合わせた者は、鳥肌が立つ程の技でした。今でも脳裏に焼き付いています。

毎年、講評では競技時間内に課題を完成させるための作業手順や、形状寸法の精度を高めるための勝手墨や合印の重要性を伝えてきました。今後、寸法精度を高めるためには、材料がどこの場所に使われるのかわかるようにする勝手墨を付けることを徹底してください。勝手墨を付けることにより、加工時の判断する時間が劇的に速くなり、加工のミスも減り、作業効率が高まります。

指導者の方は勝手墨の利便性と共に、部材を適切な位置に配置して付加価値を高めるための見方や考え方を指導し、選手自らが考え判断する力を育んでください。

以上を踏まえ、次年度の大会では多くの選手が技を競い合うことを切望しています。

結びに、参加選手は、競技中は終始、観客や大会スタッフの視線を一身に浴びる重圧をものともせず、軽やかに時間内に完成させました。その強い精神力に心から敬意を払います。また、選手を支える指導者や周りの皆様、大会関係者に感謝いたします。



■ 参加選手数 13名

■ 協賛企業等

 **Adobe** アドビ株式会社

 **DynaComware Corporation**  
ダイナコムウェア株式会社

競技内容は、地方自治体によるUIターン推進活動を周知喚起するためのポスター制作で、「Uターン者向け」と「Iターン者向け」の二種類を制作します。UターンとIターンそれぞれのターゲットに向けたアピールポイントを探し、いかに実際のデザインに落とし込むか、競技者の企画力と技術を競っていただきます。今回のポスター制作については、課題を事前に公開し、選手は前もって構想してきたデザイン案を基に作品を完成します。事前に用意が許された写真データ等の活用を検討しながら、各々が工夫したデザインを創り上げていく中で、広告を見た人々の心に届かせる作品の制作を目指します。



### 金賞受賞者の感想

長崎 和志

長野県

今回のDTPの課題はUターン、Iターンのポスター2種類の制作でした。使用する写真は自分で用意し、タイトルやコメントも全て自分で考えなくてはならず事前準備が大変でした。故郷に戻ってきたくなるUターンのポスターは無料素材の写真を使うより家族、友人の自然に出てくる笑顔が撮りたくて、自分で写真を撮る事にしました。子供のサッカーの練習後に撮ったり、自宅の畑のさつまいも掘り、地元の豆腐屋さん、身内ならではのいい笑顔の写真が撮れました。ストーリーも社会人になって都会に就職したけど故郷に帰りたくなったというコメントにし、メインタイトルもコメントと繋がり、かつパッと見てインパクトのあるわかりやすいタイトルにしました。移住したくなるIターンのポスターはメインの写真が子供が通う小学校の稲刈りの写真を使わせてもらい、インパクトのあるタイトルに悩みましたが会社の上司にもアドバイスを頂きながら自分の中のイメージが形になりました。下準備が大変でしたが当日は自分の思った通りの作品にはなりました。周りの人の作品を少し見た時に内容をたくさん入れてあり、作り込んであったので不安になりましたが、ポスターだからインパクト重視だと思いあまり気にしない様にしていました。結果金賞を取ることが出来てまずはホッとした気持ちが1番でした。たくさん写真を撮ってくれた家族や友人の協力があったからの金賞でした。本当にありがとうございました。



## 講評

主査 大野 謙治

今回のDTP種目の競技課題は「自治体によるUターン・Iターン促進のためのポスター制作」でした。ひとつの自治体を『故郷としての側面』と『魅力ある移住先としての側面』の二つの視点で捉えるシリーズ広告です。単にポスターとしての完成度を高めるだけでなく、二つの作品が対をなすようにグラフィックやコピーで表現するというクリエイターとしての企画力、創造力を問う課題としました。

昨年同様、課題は事前公開とし、イラストや写真などの素材の持ち込みを可としたことで、フォントやロゴマークなどの精度の高い作り込みや写真の絵コンテまで考えて撮影された方など今回も13名の選手それぞれに創意工夫が見られた作品となりました。特に課題のポイントであるシリーズ広告としてのデザインは、グラフィックで違いをつける、色味で違いをつける、あえて同じレイアウトにこだわる等、各自の表現方法に個性が発揮され、完成度の高い作品が揃ったことは審査員一同、驚きとともに感銘を受けました。

競技結果としては金賞・銀賞・銅賞・努力賞各1名を選ばせていただきました。結果的には僅差の争いになりましたが、3時間余りの競技時間をフルに使い切れていない方もおられたことも事実で、事前の準備の大切さとデザインを完成させるための段取り、プランニングの差が成績に現れたように感じます。ともあれ課題を自分なりに解釈し各々の個性を表現された競技者の方々には敬意を表したいと思います。また、競技後の講評会にも多数の競技者が来られ、熱心に講評を聞いていただきディスカッションすることができました。現状に満足せず向上心を持ち続けることが成長の糧となります。早くも来年が楽しみになるような時間を過ごさせていただきました。

今回は、競技委員の選任から準備、本番まで機構のスタッフの皆さんと協力しながら極めて円滑に行うことができました。深く感謝申し上げます。

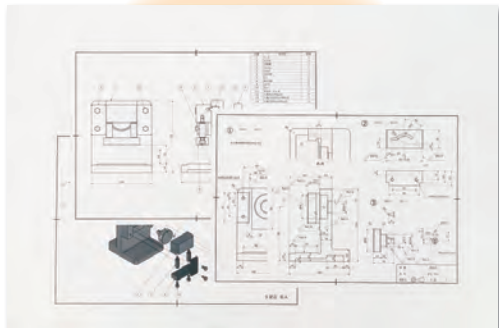


■ 参加選手数 6名

■ 協賛企業等



競技課題は、「ハンドプレス」の「部品図と組立図」、「軸測投影法による組立図と立体分解図」の作成です。これまでの製図作業は、製図板と呼ばれる台に、用紙を貼り付け、鉛筆やインクで、三角定規、コンパスなどを駆使しながら手書きをするのが一般的でした。近年では、コンピュータ支援設計ツール(Computer Aided Design: キャド)を用いて、機械の設計図面を作成しています。CADの導入により、これまで人の手に頼っていた製図作業や図面作成などが、より正確に効率よく行えるようになりました。今回の競技では、はじめに与えられた組立図、部品図を読図して品物を立体的に把握します。その後、CADツールを使い、指示内容に従って作図、寸法記入などを行い、図面として完成させます。



### 金賞受賞者の感想

足立 玄人

愛知県

8年ぶり2度目の金賞になります。

過去の実績もあり、入賞して当たり前と思われているところもありますが、正直なところ、前回の金賞から時間も経ち、CADの操作も忘れ、やる気も出ませんでした。

普段の業務も忙しくなり、今までで一番練習をしなかった大会です。

しかし、大会前々日、前日と2日間も練習でき、何とか金賞をとることができました。

練習するためにノートPCを貸してくれたT先生に感謝します。

ありがとうございました。

大会の問題の内容自体は難しくはありませんでした。私の知識や経験、技能がスキルアップしているためかもしれません。

その知識や経験、技能は普段の業務で培われたものですが、なかなか理解を得られないところがあり、個人参加をしています。障害者雇用に積極的でない企業が多少でも変わってほしいなと思います。ただし、講評を聞くと見直すところもあるので、まだまだ勉強が必要だと感じています。

今後ですが、世界大会の開催が決まれば頑張っていきたいと思います。

年齢を重ねると、若い選手との間でキャリアの差が出てくるため、大会に参加することに疑問が出てきます。次の世界大会が最後かなと思っているので、次の世界大会も国外がいいなと思います。



## 講評

主査 池田 知純

機械CAD職種には選手6名が参加し、多くの来場者の前で競技を実施することができました。機械CAD職種では、競技時間3時間の中で大会当日に配付する部品図と組立図を読図し、3次元CADソフト「SolidWorks」あるいは「Inventor」を使用して部品モデルとアセンブリモデルの作成、部品図・組立図・立体分解図の作成を行います。選手には、課題に取り組むにあたり、課題の構造と動きを理解しモデルを組み立てること、機械製図のルールにしたがって正確に図面を描くことが求められます。また、ソフトウェアの機能を使いこなし、効率よく作図するスキルが求められます。

今大会の競技課題は「ハンドプレス」でした。本大会では、前回大会同様に鋳造部品を含む課題であり、機械設計の実務的作業に求められる機械製図の知識と機能を実現するための拘束条件を問う内容でした。競技結果は、金賞1名、銀賞1名、努力賞1名であり、上位入賞作品は完成度が高いものでした。惜しくも入賞を逃した選手は、受賞者と遜色ない知識と技能を有していましたが、競技課題が未完成であったことが得点に結びつきませんでした。選手の皆様には、今回の経験を糧にしてより一層、機械製図の知識・技能の習得と機械CADの操作スキルの向上に努めていただき、次へのチャレンジにつなげて欲しいと思います。

最後になりましたが、選手、選手の指導者・付添者、専門委員、競技補佐員、大会関係者の方々のご協力により、無事に大会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。



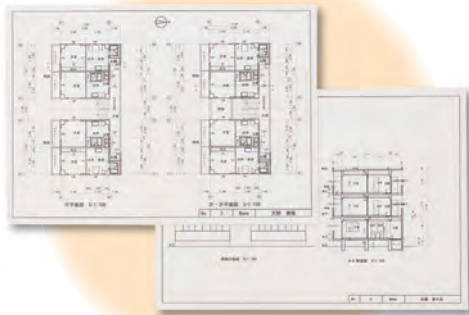
■ 参加選手数 5名

■ 協賛企業等

 **Adobe** アドビ株式会社

 **AUTODESK**

コンピュータの普及と共に、建築CADが建築業界でも使われ始めました。今日の建築業界では、手書きの図面に替わりCADを使って描かれた図面が、一般的になっています。建築CADは、図面を描くためのソフトウェアとコンピュータ、そして図面を紙に印刷するプリンタから構成されています。そのため、製図版を使った設計とは道具の構成が大きく異なります。この競技では、建築の設計者が描いたスケッチや構造、設備、建具表の情報を理解し、建築CADを用いて建築基本設計図を作成する作業の正確さと速さを競います。そのため、選手には、コンピュータと建築CADソフトウェアに関する知識と操作技術、建築図面の読解力と製図規則に関する知識を必要とします。選手は、建築CADを用いて、集合住宅を目的とした鉄筋コンクリート造3階建てビルの図面(縮尺1/100の平面図、立面図、断面図)をA3用紙2枚の図面に仕上げます。





講評

主査 和田 浩一

建築CAD競技は、5名の選手が参加して行いました。課題は、建築汎用2次元CADシステム(AutoCADあるいはJW\_CAD)を用いてA3版用紙2枚に鉄筋コンクリート造3階建て1/100の図面(各階平面図、立面図、断面図)を描き上げ、図面としての作品を作製するものです。各階平面図と断面図には、詳細な寸法の情報が記載されていないため、同時に配付する構造部材リスト、建具リスト、建築設備リスト、外部階段詳細図を参照しながら総合的に判断して図面を描き上げなければなりません。

今年は、小規模な3階建て集合住宅課題としました。1階と2階・3階共に、2種類の住戸で構成されています。描く図面もA3版2枚のため、線の量が多く難易度が高くなっています。

競技の結果、2人の選手が銀賞、さらに1人の選手が銅賞となりました。今年のような課題に対応するためには、直ぐに作図したくなる気持ちを抑え、しっかりと図面を読み込み、如何に効率良く作図を進められるか十分に検討する必要があります。今年の課題は、特に東側と西側のプランが、建物中心にある階段室に対して対称の関係にあり、さらに1階と2階の住戸が同じプランになっています。そのため、1階住戸の半分を正確に作成し、コピーや反転コピーを駆使しながら同じ階の残り半分を仕上げ、さらに1階から2階・3階へコピーして描きます。一見、簡単なコピー作業のように見えますが、引き違い窓など、反転すると不都合な建具や、階段の描き方も各階によって違うものもあります。これらの特性に気を配りながら作図作業をすることがポイントでした。これらの判断が正確で迅速にできるようになることで金賞、あるいは入賞が期待できます。次の大会での選手の活躍を期待しています。

最後に、競技を無事に終えることができたことを選手及び選手に指導されている指導員の方、大会関係者、競技スタッフの方々に心から感謝いたします。



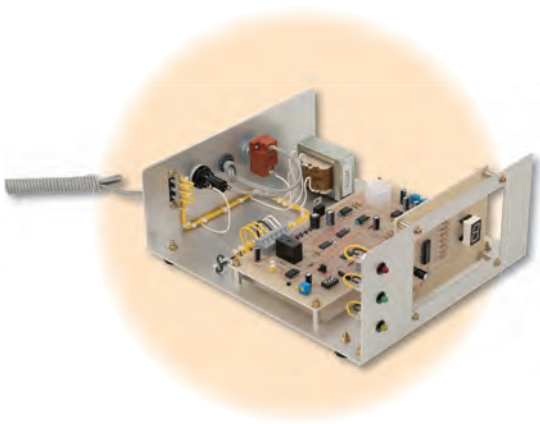


■ 参加選手数 7名

競技課題は、「省エネコントローラーの組立」です。現在、我々の身の回りに有る多くのものに電子機器が搭載され、各種の制御が行われています。このため、電子機器の組立技術は、その試作・改良といった製品開発には無くてはならないものです。今回の競技では、「省エネコントローラー」の組立を通じて、そのようなハイテク技術の一端を担っている電子機器の組立技術を競います。美しく信頼性のある機器を組み立てること、そしてそれが正しく動作することが求められます。また、近年は電子機器が小型化・軽量化される中で、使用される部品も小さくなっています。競技においても、3.2mm × 1.6mm で厚さ 0.6mm の部品が使われており、小さい部品を正確に取り扱う技術も求められます。

技能競技

電子機器組立



### 金賞受賞者の感想

小林 元気

愛知県

初めてのアビリンピック全国大会に出場し、金メダルを獲得して持ち帰ることを目標にして訓練に励んだ結果、金賞を獲得できてとても嬉しかったです。

訓練で特に苦労したのは、はんだ付けと配線のフォーミングをそれぞれ綺麗に仕上げることでした。指導員からアドバイスして頂いたり、色々と試行錯誤してもなかなか上手く行かず、心が折れてしまうこともありました。それでも、上手く行くようにと悪戦苦闘を繰り返しながら訓練に励んだ結果、どんどん上手く仕上がるようになり、自信が持てるようになりました。

大会当日は、上手くスムーズに進められるか不安な気持ちで一杯でしたが、トラブルや失敗の無いように落ち着いて作業でき、全力発揮できて良かったです。

金賞を獲得できたのは、私が頑張った結果だけではなく、指導者や職場の人達からのご声援、協力して頂いた結果だと思っています。本当にありがとうございました。

今後は、アビリンピック全国大会の訓練を通し経験したことを、職場での色々な目標に活かして、良い結果が得られるように頑張り、職場の人達に喜んでもらえるようになりたいです。

これからアビリンピックに出場される皆さん、目標に向かって色々と苦労することは有ると思いますが、精一杯頑張ることを大切にしてください。



## 講評

主査 櫻井 光広

第42回大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、3年ぶりの有観客のもと、幕張メッセにおいて開催されました。電子機器組立競技には、昨年度と同じ人数の7名の選手が参加されました。今年度もマスク着用という不自由さはありませんでしたが、コロナ前のように一般の方も見学に訪れるという本来の雰囲気に近い状況の中で、選手たちは競技に集中して作業に取り組まれました。

競技課題は、前回大会の課題から大きな変更はなく、夜間の人の動きに反応する機器を制御する回路を組み上げることです。必要とされる技能レベルは、技能検定「2級 電子機器組立て」課題と同程度です。限られた競技時間で、正確に動作することを必須として、電子機器を美しく組み立てなければなりませんので、高い技能が求められる「はんだ付け」の技術はもちろんのこと、束線による配線技術、作業段取り、トラブルが生じた際の対処方法などのさまざまな知識と技術、技能、経験が問われる競技となっています。

競技結果については、採点基準に基づき、厳正に審査をしました結果、金賞1名、銀賞1名、銅賞1名、努力賞1名の4名が入賞しました。前回大会と同様に上位入賞作品の得点差は僅差であり、特に金賞作品については、ほとんどミスのない作品に仕上げられておりました。上位入賞をめざすためには、チェックや動作調整、フォーミングにかかる時間を確保するためにも配線作業やはんだ付け作業などを早く正確に仕上げる技術を習得するとともに、要求仕様を正確に理解して、要求仕様から逸脱しないような仕上がりパターンについて確認・検討していくことが重要です。上位入賞を逃した選手の方は次回大会に向けて見直してみてください。また、参加されたすべての選手の皆様におかれましては、さらなる自己研鑽に励まれて、今後でも活躍されることを期待しています。

最後に、参加選手と選手を指導されている指導員の方々ならびに大会関係者、競技スタッフ、その他多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



# 義肢

■ 参加選手数 4名

■ 協賛企業等

一般財団法人啓成会

**JUKI** JUKI販売株式会社

**S** 西武学園 西武学園医学技術専門学校

競技課題は、「下腿義足(P T B式:patellar tendon bearing)ソケット」の製作です。『義肢』とは、疾病や事故などにより失った手や足の外観や機能を補完する人口の手・足のことをいい、特に手の代わりとなるものを「義手」、足の代わりとなるものを「義足」と言います。この義肢製作に当たっては、切断部分(「断端(だんたん)')と言います)の形状を正確に型採りし、解剖学的・人間工学的知識を基に断端モデルを修正した後、修正されたモデル(陽性モデル)に合わせた正確な加工・組み立てを行うなど、様々な技術・技能が要求されます。今回の競技では、義肢の中でも特にそのフィッティングが難しい「ソケット」と呼ばれる部分を製作します。ソケット本体の加工法は、注型法と呼ばれるもので、この方法により繊維強化プラスチック製のソケットを作ります。





## 講評

主査 水澤 二郎

本競技は、義肢の採型・製作・適合という一連の作業のうち、最も重要とされている「ソケット」の製作を課題としており、義足ユーザーにとってこのソケット部分の適合が悪いと実使用に至らなくなります。したがって、課題評価については、ユーザー目線によるアウトカムメジャー（成果指標）を考慮し、実使用を想定した製作となっているかというところに重点を置くことにしております。

競技前日の下見では、定められた持参すべき工具の確認、使用機器の調整、動作確認のほか、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年よりも広い競技エリア内での移動経路の確認など、万全な準備を行いました。競技当日、4名の選手は良い緊張感の中、高い集中力で競技に打ち込み、全員が規定時間内に完成しました。その後、複数の競技委員で寸法精度、出来栄え、作業態度などの各要素について詳細に定められた採点基準に基づき、厳正に審査させていただきました。その結果、銀賞1名、銅賞1名の結果となり、残念ながら金賞受賞者はませんでした。しかし、他の2名の方々を含め、義肢製作においては比較的短期間での修得経験であることを鑑みると、規定時間内に怪我なく完成させた点については大いに評価されるべきと考えます。また、製品製作における一つ一つの工程の中で、実使用を十分に意識した作り込みをしていることは見て取れましたので、あとはこの意識を形にするという技術・技能の向上に研鑽を積み、使用者にとってより良い義肢を製作していただきますよう期待しております。

最後になりましたが、選手の皆様、選手の指導者、応援や見学者の方々、機器の貸与・調整、材料の準備、競技会場の設営など、ご支援ご協力いただきました関係各位、義肢装具士養成校・各企業・団体の皆様のご協力により、無事に大会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 7名

競技は午前午後に分かれ、違う部位の歯のカービングを行います。午前中は見本の歯(3D画像)を参考にし、午後は見本の歯はなく自由に行います。歯の形は口の中で食物を咬む様々な要素、発音、身体的な能力、ほか、顔の見た目の美しさも考慮されることが重要です。今回、ZBrushCoreMini2021という歯科界ではポピュラーなソフトを使って歯の形の優劣を競います。慣れるまでには相当な練習と訓練が必要とされます。コンピュータ上で作成した歯の形は削りだし用のコンピュータや3Dプリンタなどにより、セラミックやプラスチック、金属などの人工的な歯に置き換わり口の中に装着されます。選手たちはコンピュータの操作に熟達すると同時に、美的センス、歯の解剖学、あごの動きを知ることがより重要とされます。



### 金賞受賞者の感想

吉田 勇己

東京都

2022年、第42回全国アビリンピックにて金賞を受賞する事が出来たこと、とても嬉しく思います。

歯科技工士免許を取得し、アビリンピックへの参加資格を得てすぐから参加を始め、今回は5回目の挑戦でした。

毎年、歯科技工の課題は初見では頭を悩ませるようなケースが多く、前持って課題練習をしてポイントや対策を練って臨む事が先輩方と同じスタートラインに立つことができ、且つアビリンピックで結果を残すために重要だと考え、準備してきましたので、最高の結果となり良かったと思います。

ただ、金賞をいただいたとはいえ歯科技工の業界では、自分はまだまだ新人という立場でありベテランの方々には劣る部分もたくさんあります。

より研鑽を積み重ね、歯科技工士の本質である患者さんの健康やQOL (quality of life: 生命や生活の質)の向上に、今後も継続して力を注いでいきたいと思ひます。

最後に、このような機会を与えていただいた大会関係者、審査員の皆様へ心から感謝申し上げます。

そして、家族、友人やタクミオーデントの皆さん、これまでずっと応援していただきありがとうございました。これからもご迷惑おかけしますがよろしくお願ひします。



## 講評

主査 伊集院 正俊

今回の歯科技工競技の課題は、課題Ⅰ「中切歯右上1番」、課題Ⅱ「第一小白歯右下4番」のCAD用デジタルカービングを行いました。

持ち時間は両課題とも2時間30分とし、それぞれ早く仕上がったものは2時間で切り上げてても良いものとしましたが、全員時間いっぱい使って作業を行いました。

コンピュータは予め事務局が用意したものを使用しました。競技用CADソフトとしてZBrushCoreMini2021を使用し、作成目標モデル提示ソフトは、競技直前にMeshmixerをコンピュータにインストールしました。

また、作成途中でのデータ紛失を最小限にするため、競技20分ごとに作成データ保存を行いました。

7名中2名に若干のコンピュータ不具合が生じ、回復にそれぞれ5分、10分要したので終了時間の延長をそれぞれ認めました。

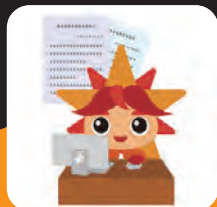
今回は初めてのデジタルカービングの課題ということで、作成目標モデル提示ソフトを両課題とも用いましたが、今後は作成部位および本数とともに検討課題となります。

各選手の作成状況をそれぞれモニターにてライブ表示し、見学者に分りやすいとお言葉をいただきました。

採点は、5名の専門委員が行い、今回は金賞、銀賞、銅賞それぞれ該当者を選出しました。新たな課題となり、採点表も刷新し、今回バランスの良い結果となりましたが、今後さらに細部に亘り検討が必要と思われます。

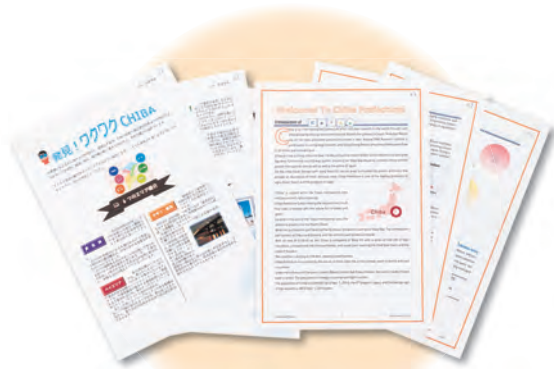
初めての課題ということで不安のある中、選手は大会直前までご努力された跡が認められました。

今後、歯科技工業界も間違いなくデジタル分野の普及、進展が見込まれるので、アビリンピック選手の皆様にはさらなる奮闘を期待いたします。



■ 参加選手数 36名

競技課題は和文文書と英文文書の作成です。ワープロソフト Word 2019 を使用し、作成見本と作業指示書を見ながら、文書の完成度を競います。Word に用意されている各種機能(ページ設定、書式設定、作図、オブジェクトとグラフィック活用、表作成)を自由に使いこなせる技術が求められます。制限時間内に競技課題を完成させるためには、和文・英文ともにスピーディーで正確なタイピングスキルが必須です。また、挿入するオブジェクトについては、指定ページに収まるよう、行間やサイズを調整し、全体のバランスを整える必要があります。さらに、完成した課題はカラー印刷をするので、色や効果の設定も重要な要素であり、見栄えの良い作品に仕上げる技術も要求されます。



### 金賞受賞者の感想

安達 芽衣

奈良県

私は、アビリンピック全国大会に2018年から出場しました。当時は職業訓練校に通っていましたが、その時は入賞できませんでしたが、全国大会に出場できたことが自信になり、就職することができました。就職後も挑戦したいと思って、出場しました。

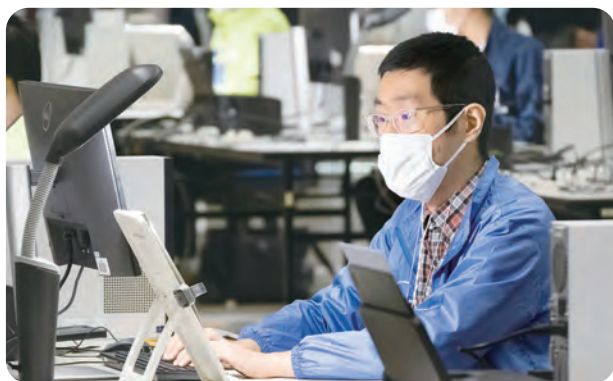
2019年、2020年で2年連続銅賞を受賞することができて、嬉しい反面、課題が全て終わらない悔しさがありました。

昨年は、3年連続出場した人は1年空けるというルールで出場できなかったため、その期間を活かして、自己流だったタイピングをホームポジションからできるように練習しました。タイピング方法を変えるのは、とても大変でしたが、1年間、毎日練習をして、少しずつできるようになりました。また、オンラインのパソコン教室で Word を学び、CS検定ワープロ1級、日本語ワープロ検定初段などの資格を取得して、表や図形を素早く作成する練習をしました。

今回の全国大会では、課題をすべて終わらせることができ、きれいな作品を作ることができて、とても嬉しいです。

長い期間練習を続けていると、肩こりと目の疲れがひどくなり、思うように練習ができないこともありました。それでも、あきらめず、ここまで頑張ってきたのは、家族、職場の方々、いつも支えてくださっている皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

アビリンピックでの経験が自分の自信につながったので、これからは、得意なことだけでなく、苦手なことにも積極的に取り組んでいけるように頑張ります。



## 講評

主査 長沼 智美

第42回大会は、各都道府県から36選手にご参加いただきました。地方大会を勝ち抜き、都道府県の代表として出場した選手の中には、初めて全国大会に参加する選手もいれば、過去の全国大会にも出場経験がある選手もいます。選手とお話をすると、全国大会にかける意気込みと熱量を感じることができ、非常にうれしく思います。

本年度も Word2019 を使用して、「和文競技」「英文競技」を実施しました。提示された完成例を見ながら作業指示書に従って一から文書を作成していく、という競技です。和文競技では80分の制限時間で千葉県の魅力を発信する文書を作成しました。表・図形・画像などをバランスよく挿入するスキルや段落の行間・段組み・インデントなどを使ってレイアウトを設定するスキルが求められました。英文競技では、60分の制限時間で千葉県の観光名所を紹介する文書を作成しました。英文タイピングスキルと文字・段落書式などの文書編集スキルが求められました。

競技の結果、金賞1名、銀賞2名、銅賞2名、努力賞1名が入賞となりました。

Wordは、文書入力のほか、表、図形、画像、グラフなど様々なオブジェクトを挿入でき、縦・横自由なレイアウトで配置することができます。また、図形や文字に色やグラデーションを設定し、3D、影、光彩などのオブジェクト効果を適用することで、デザイン性の高いハガキ、ポスター、チラシ制作などにも活用することができます。ビジネス文書作成だけではない、Wordの魅力をぜひ多くの皆さんに知っていただき、いろんな場面で利用していただきたいと思います。

最後になりますが、選手ならびに支援者の皆様、お疲れさまでした。次回大会もたくさんの方のご参加をお待ちしています！また、大会の運営にご協力いただきました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。





### 参加選手数 6名

競技課題は、「アビリン高校」における入学試験の合否判定システムを課題に添って作成します。データベースは今日の情報システムにおいて根幹となる重要な部分を占めています。今回の競技においてもこれまでと同様に、D F D（注）の読み方やデータ処理の流れを理解したうえで、Access を使用します。

（注）D F D (Data Flow Diagram)とは、いわゆるフローチャートと異なりデータの流れを中心に図示したものです。



### 金賞受賞者の感想

石倉 正史

福岡県

全国アビリンピック大会。3回目の挑戦でした。初めて県大会に参加してから20年近く、念願だった金賞をやっと受賞することができました。今回だめなら「引退」も考えていたので、受賞できた喜びはもちろん、自分に自信をもてたことが嬉しいです。

私が出場したデータベース競技には事前課題があるのですが、その対策がまともな形になったのは、大会1ヵ月前。毎日が試行錯誤の日々で、納得がいかず徹夜になったこともあります。パソコンに触れていない時間が惜しく、設計図を作り浴室に持ち込んだ日もありました。その結果、作業時間はぐっと短縮でき、大会当日は時間を上手く使えたことが結果につながったんだと思います。

また、事前課題には一部が非公開で本番まで分からない部分があり、それを予想して備える必要があるのですが、今回は予想が見事に当たったことも大きかったです。

アビリンピックへの参加を迷っている方は思い切って出場してみてくださいはどうか？  
そこで得られるものはとても大きいと思います。

そしてもっともっと大会の知名度が高くなることを願っています。

次なる目標は「国際オリンピックへの出場」！ 新たなスタートを切ろうと思います。



## 講評

主査 森田 良一

このデータベース競技は、事前公開された課題 A を何度も繰り返し練習し、制限時間内にクリアすることが必要な競技になります。事前練習時間の長さや努力の成果が結果として表れるとともに、そこに新たな技術的な発見もあることと思います。

今回の課題からは、データインポートに関しては、手段を問うことはしませんでした。これにより昨年までとは違い、データインポートで苦勞することはなくなり、データベース本来の手続きに係る課題に集中できたことと思います。課題の中にはデータ内容、条件によって数値を加工しながらテーブル更新するという処理が必要になります。

条件によって処理判断を分岐しなくてはならないものもあり、その部分を一時的なテーブルを作成して実現させたり、VBA を使用してコードによって実現させたり、作り手の技術レベルで処理内容はいろんなやり方を考えられるのもこの競技の面白さとなります。また ACCESS が自動的に表示するメッセージや印刷ダイアログを表示させないためには VBA の記述が重要なので、参加する選手はより一層の勉強が必要となります。

審査のポイントとしてのユーザーインターフェイスは、利用者の操作感を意識し、デザインを工夫しながら部品をフォームに貼付（整列）されているかを見ました。

毎年、アビリンピックの期間中において選手の皆さんが個性的な素晴らしい作品を作成されることを本当に楽しみにしています。

次回の大会では、全員が事前練習で多くの時間を使って技術研鑽されることを期待したいと思います。



■ 参加選手数 8名

■ 協賛企業等

 **Adobe** アドビ株式会社

競技課題は、「郷土料理コンテストに関するホームページ作成」です。郷土料理コンテスト開催に関するホームページ制作の依頼があったことを想定し、デザイン制作から、ホームページ制作までの工程に関する課題に取り組みます。競技者は、事前課題に基づき競技課題を作成・提出しています。競技当日は、持参した作品に対して、当日課題で提示された新たな要件・仕様に従って、ページレイアウト、デザインを検討したうえで、ホームページ制作を行います。選手は、要件を正しく理解し、これまでに培ってきた技術を最大限に活かし、閲覧者にとってわかりやすく情報が伝えられるホームページを制作しなければなりません。

技能競技  
ホームページ





## 講評

主査 加藤 貴一

第42回大会より、ホームページ制作に関する動向、職業能力向上・技能アピール機会などを鑑み、競技時間、課題内容を改訂しました。競技者の皆様におかれましては、事前課題の提示があったものの、過去課題との違い、競技時間延長への対応など戸惑いもある中、大変ご苦労であったと想定します。

今年の競技課題は、「郷土料理コンテストに関するホームページ作成」、競技時間は4時間30分でした。実際の業務を想定しワイヤフレームデザイン、ページ制作まで幅広い課題を提示しました。残念ながら金賞作品はありませんでしたが、上位入賞者の競技内容は業務を通じて培われた実力を遺憾なく発揮し、職業能力向上・技能アピール機会に相応しいものでした。特に課題の背景、閲覧者を想定しストーリー構成にも優れ、わかりやすく情報を伝えられていた点が秀逸でした。上位入賞者のみならず、参加者の技術レベルは年々確実に向上しており、参加選手全員に敬意を表します。

競技に参加される皆様にお伝えしたい事として、WEB制作ツール、WEBサービスなどの利活用により、ホームページ制作は、以前に比べ比較的簡単に制作できるようになりました。ホームページ競技で確認したい技量設定として、情報設計、デザイン、コピーライティング、文章構成力、適切な技術を活用できる制作能力、アクセシビリティ対策など幅広い知識・技能が挙げられます。日々の業務・学習を通じて、職務遂行に必要な能力を習得・向上して頂き、競技に挑んでいただきたいと思います。

最後に、今年も多く皆様のご協力により無事に競技を終了することができました。

選手の皆様、指導者の皆様、選手を支える皆様、大会関係者に心より感謝申し上げます。

参加された選手の皆さまの今後のご活躍を祈念いたします。



■ 参加選手数 9名

競技は次の3課題によって行われます。

### 競技課題1「花束」の作成

花束の形はラウンド(上から見て円形)で、大きさは直径40cm(±2cm以内)、高さは結束部(結んだ部分)から25cm(±2cm以内)、ステム(結束部から下の部分)は14cm(±1cm以内)です。

### 競技課題2「花嫁のブーケ」

花嫁が持つブーケを作成します。形はカスケード(自然に流れ落ちる感じ)、全体の長さは55cm(±2cm以内)、幅は28cm(±2cm)、持つ部分にはリボンを付けます。

### 競技課題3「会場装飾(ワンサイドアレンジメント)」

会場に飾る花飾りの作成です。形はトライアングル、高さは60cm(±5cm以内)、幅は50cm(±2cm以内)、奥行きはFPより25cm・底辺の花より22cm(±2cm以内)です。



## 金賞受賞者の感想

藤澤 一代

香川県

去る11月4日～6日、千葉県幕張メッセで第42回アビリンピック全国大会に参加し、6度目の挑戦で念願の金賞を受賞することができました。

「いつか自分の時代が来る。」思い起こせば8年前、そう言い聞かせながら最愛の母の介護にくたくたな自分を励ますために始めたフラワーアレンジメント。家族の誰もがここまで没頭するなど思っておらず、主人からは「若い人に譲りなさい。もう今年で最後ね」と何度も言われてきました。

しかし、練習のお花を集めるために県内中の花屋さんを走り回り、介護や仕事と両立しながらお稽古に没頭する姿に、「ここまできたなら、今年こそ金メダル」と家族が送り出してくれた今年。今までで初めて、自分の納得できる作品を創り上げることができました。それは、毎年「良く来たね」と迎え入れてくださる審査員の先生、県外から応援に駆け付けられる競技仲間、そして天国から見守ってくれる両親、指導して下さった先生方・・・皆さんへの思いをひとつひとつのお花に込められたからだと思っています。

この8年間でフラワーアレンジメントという競技を通して学んだ経験や、素敵な出会いは金メダル以上の私の財産になりました。



## 講評

主査 金澤 茂

今回の大会は選手9名の参加を頂き3課題にチャレンジしていただきました。季節感のある花、実物をいかに配分するかも見どころでした。第1課題「花束」はラウンド、アウトラインがしっかり出来ているか結束の位置、ステムと花のバランスを見る課題で、ここに季節感のある花、実物を使われている選手が多く見られました。見た目の視覚バランス、持った時の重量バランスが大切になります。今回花束は全体的に皆さん上手くまとめられ大きな点差は無かったと思います。第2課題「花嫁のブーケ」は、皆さんキャスケードは白を基調に上手くまとめられていました。しかし、大変残念なことに、ほとんどの選手が、基本的なバック処理ホルダーの突起の部分が隠されておらず、特にハンドルのリボンの水濡れがありました。これが大きなマイナス点となりました。どうすればリボンが濡れずに済むか今一度考えてみて下さい。第3課題のワンサイドアレンジはトライアングルのスタイルで、昨年の360°展開から180°展開に変わりました。花束同様季節感のある菊、リンドウ、ダリア、実物など多く使用されており季節を感じられる作品に仕上がっていました。ここで大切な事は主軸がしっかり垂直に挿せていること、フォーガルポイントの位置アウトラインがしっかりつながっていることです。垂直にさせず全体的に前のめりになっているもの、フォーガルポイントがあいまいになっている作品が数点見られました。

全体的に基本的なメカニックを隠す点はしっかり出来ていたと思います。また、裏側の背面にも気を使って頂けたらさらに良い作品になるのではないのでしょうか。

採点には影響はないのですが、時間内の掃除や花の扱い方がしっかり出来ていた選手が見られた事は大変嬉しく思いました。


今後、さらに競技レベルが向上できればと考えます。閉会式後の講評も大切だと思いますが、出来れば全課題が終了後作品を前にコメントした方が次につながる気がします。今後の課題とさせていただきます。付き添いの方から花が高く思うように練習できないとの意見も伺いましたので、主催者とも協議していきたいと思います。最後になりましたが多くのの方々のお力添えにより無事競技を終える事が出来ましたここに深く感謝申し上げます。



■ 参加選手数 1名

■ 協賛企業等

**DENSO** 株式会社デンソーウェーブ  
DENSO WAVE

 国立大学法人名古屋工業大学

競技時間内に、ロボットの動きを指示するプログラムを作成し、動きの指示のしやすさや、実際にロボットを動かした際の正確さや速さの優劣を競います。使用するプログラミング言語に習熟し、良いプログラムを作成する能力が試されることはもちろん、課題をどのように解決するかという構想の立て方や作業の進捗管理能力、ロボット実機を持つ特性や動作環境をどのようにプログラムに反映させるかという現場への配慮等、問題の分析からシステムの設計、テストに至るシステムエンジニアとしての総合的な技量が求められます。

技能競技

コンピュータプログラミング





講評

主査 水野 直樹

コンピュータプログラミング種目は、競技課題が情報の処理にとどまらず、ロボットアームを介して実世界に直接働きかけるといった特徴を持った種目です。コロナ禍のため、前回、前々回は無観客での開催でしたが、今回は観客の方を迎えての大会となりました。

残念ながら参加頂いたのはこれまでに受賞歴のある1名の方のみになりましたが、3年前から導入した小型ロボットアームと専用プログラミング言語により3Dペンで一部立体の作品を作成する競技内容の検討を重ね、参加選手にその持てる技量を発揮頂けることが期待されました。

大会の全体の運営では、協賛企業協力員の方の助力も相まって、コロナウイルス感染防止を考慮した競技の準備、観客の皆さんに競技内容をより良く伝えるためのディスプレイやパンフレットの用意、デモロボットの設置、ロボットの動作テストなど順調に行う事が出来ました。

当日課題の設定は、参加選手の技能を評価するのにふさわしい難易度になるように行いました。当日の競技は午前3時間、午後3時間の計6時間でプログラミング、ロボットを用いた3D作品の描画とドキュメント作成をする総合的な課題に挑戦頂くものでした。

課題図形としては、競技会場のある千葉県ゆかりの魚、「鯛」をイラスト化したものを提示しました。競技は観客の方を迎えての実施で、競技の様子は動画でも配信されました。

競技結果は、3回目の出場になる選手であったことから作品の完成度は十分に高いものでしたが、プログラミングやドキュメントの内容に改善の余地があり、銀賞となりました。

また、今回の大会では、競技の場に来ていただいた方に競技内容をアピールすることができ、次回の愛知大会に向けて競技内容に興味を持っていただいたことで、今後の参加者の増加が期待できる手応えを得ることができました。





■ 参加選手数 45名

■ 協賛企業等



公益社団法人  
全国ビルメンテナンス協会



公益社団法人  
千葉県ビルメンテナンス協会



公益社団法人  
東京ビルメンテナンス協会

今年度のビルクリーニングは従来の2課題に戻して実施されます。

課題1：事務所に多く施工されているカーペット床の競技

課題2：弾性床と机上拭きの競技

両課題とも、それぞれの競技で使用される資機材の基本的な使い方や作業動線に基づいて進められます。そして、その結果として提供される清掃サービス、すなわち作業の出来映えが大きな競技のポイントとなります。また、あらかじめ設定された標準時間の中で、マナーや安全に留意した作業形成も重要な要素となっています。



### 金賞受賞者の感想

壁谷 佳菜

神奈川県

私は第42回アビリンピック全国大会のビルクリーニング種目で金賞を受賞することが出来ました。神奈川県の大会は去年行われました。この神奈川県大会はアドバイスを受けながら本番を迎え、いつもより時間がかかりましたが金賞を受賞することが出来、今回の全国大会に出場できることになりました。

全国大会に向けての練習は平日2時間、本番前の休日は3時間と約2か月間、練習を積み重ねてきました。練習時間は通常業務がなくなってからで、少し疲れていることから、平日の練習はなかなか集中出来ないこともありましたが、元気を出して頑張ろうと思い、大きな声を出し自分にやる気が出るようにして練習は頑張りました。練習では、指導員が動きの状態を見て修正点をチェックしたことに対して、アドバイスを受け修正するように頑張りました。

特に気を付けたところは、要素訓練をしっかりやり直し、通し訓練で確認することの練習を何回も繰り返しました。また、目標の時間を決めて、動きが雑になって早過ぎていないか、丁寧に過ぎ過ぎて時間が掛かり過ぎてないかも気になりましたが、本番が近づく数日前には、安定した動きが出来ようになりました。本番当日は、たくさんの人が見えて少し緊張しました。また、待ち時間が長かったので少し体を動かしながら体も、気持ちの緊張もほぐして、競技は、練習通りの動きが出来たことで金賞を受賞することが出来、とても嬉しかったです。これも、仕事の仲間たちの協力と応援のお陰で頑張ることが出来たと思ってとても感謝しています。これから大会に出場する皆様も練習して頑張れば、良い成績を残せることを信じて頑張ってください。



## 講評

主査 北山 克己

第42回全国障害者技能競技大会は、コロナウイルスの感染が比較的落ち着いている状況を鑑み、久々の有観客での開催となりました。ビルクリーニング競技は45都道府県45名の選手が参加し、会場は終日多くの来場者がお越しになり熱い視線が降り注ぐ中で展開されました。

又、今大会は3年振りに従来の2課題に戻し、非常にタイトな運用の中での競技実施となりました。選手たちは、床材の特性や資機材の基本的な取り扱い方を踏まえた上で、与えられた競技エリア、決められた競技時間という制約された環境の中で、全国大会に向け日ごろ培った個々の練習の成果を、自分なりに思う存分発揮し、「わざと技」のぶつかり合いとなりました。会場にお越しになられた観客の皆様は「こころ震わす」情景をご覧になり熱い思いが込み上げてきたのではないかと料します。又、指導者をはじめ関係者の皆様は、「送り出した地元の選手が一番だ」と想いを新たにされたことではないでしょうか。様々な要素を含んだ採点基準を基本に審査された結果は、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、努力賞1名、合計7名の選手が、この栄誉に輝きました。しかし、惜しくも受賞を逃した多くの選手の皆さんの競技姿勢は、多くの人たちの心を打つパフォーマンスだったと思います。皆さんは胸を張って次の課題に向けてスタートしていただきたいです。今大会で1点申し上げておきたいことがあります。それは、競技時間は早い方が「有利」と勘違いされているように感じられますが時間は作業が終了した結果です。技術や知識が伴った方法で適切に実施された時間こそが適切な生産性となり、お客様に喜んでいただけるサービスという成果が生まれると思います。時間を求めすぎると作業が雑になりがちですので注意していただきたいです。又、閉会式直後に行われた「講評」において、行き届かない点がありましたこと、この場をお借りし深謝申し上げます。最後になりましたが、感染禍の中でも会場にお越しになり応援をしていただいた観客の皆様やタイトな運用の中で開催された今大会を、ほぼタイムスケジュール通りに進行していただいた「競技補佐員」の皆様の大きなご協力に感謝申し上げます。



■ 参加選手数 21名

■ 協賛企業等

① 株式会社 丸定



競技課題は、商品を梱包するための箱や緩衝材の組み立てと、それぞれの組み込みです。今回の競技では、段ボールでできている小箱、中箱、化粧箱、そして2種類の緩衝材を組み立て、それらを一番大きな外箱に組み込んだものを4箱作ります。

競技課題① 緩衝材の組立・結束【25セット(5束)】

異なる2種類の緩衝材をそれぞれ5個ずつ組み立て、紐で結束します。緩衝材の出来栄だけでなく、結束する際の紐の位置や強さ、緩衝材の並べ方や向き、結束方法などがポイントになります。

競技課題② 小箱・中箱・化粧箱・外箱の組立・組込・セットアップ梱包【4梱包(4箱)】

商品を使用して、実際の梱包作業を行います。小箱・中箱・化粧箱を組み立て、外箱に緩衝材を組み込んで化粧箱を固定します。お客様に届ける最後の工程となるため、見栄えと決められた製品がセットされているかが重要なポイントとなります。



### 金賞受賞者の感想

日下 幸憲

宮城県

僕が大会に出たのは“目立ちたい”という思いからでした。職場には金メダリストが2人もいるし、教われれば簡単にメダルが取れ、みんなが僕に注目してくれると思ったのです。

恥ずかしい話ですが、僕はその日の気分や思い込みで仕事をするとところがあり、指摘されれば“〇〇だから出来ていなくても仕方ない”と自分に都合のいい理由をつけて過ごしていました。練習でもそうなので一向に上達せず、宮城大会で制限時間内に課題が終わらなくても、練習をしていればそのうち出来るようになると思い込んでいました。

全国大会の練習は、そんな僕の仕事に対する姿勢や品質への考え方に正面から向き合う時間になりました。決められたルールを守り、自分の都合ではなく品質を優先すること、そしてそれを続けること、それを理解したときに“自分は出来ているつもりになっていただけ”ということにやっと気が付きました。

出来ない理由を探すことをやめて“出来るようにするために、どうする”に気持ちを切り替えたら、自分でも驚くほど出来ることが増えました。僕の“目立ちたい”は“自分の品質を見せに行く”という思いに変わり、大会本番は日下史上最高のパフォーマンスで挑むことができました。それだけで満足なのに、金賞だなんて嬉しすぎます。

仕事に必要なスキルがギュッと詰まったこの競技に出会えて本当に良かったです。そして競技を通じて僕を成長させてくれた方々に感謝しています。僕はこれからも現状に満足せず日々の仕事の品質にこだわりながら、また、出場できることを目指します。

応援して下さいました皆さん、本当にありがとうございました。



## 講評

主査 鈴木 陽一

製品パッキング競技は、様々な業種の最終工程を担う梱包作業を“速さ”と“品質”で競う競技です。第42回大会は昨年と同じく21名の地方大会を勝ち抜いた選手が参加し開催されました。課題内容は前年と同じですが、今回は選手の技能レベル向上にともない審査はより厳しく行っております。特に毎回課題となる“品質”については完成品の見た目だけでなく外から見えない内側まで確認し評価させていただきました。

“速さ”を重視する課題1では、紐を使っでの結束がポイントとなります。毎回、紐の緩みを指摘していますが、上位選手ほど結束前の製品の置き方を重視しています。個々の緩衝材を正しく揃えて置く事で、結束する際に生じる紐の緩みを少なくすると同時に緩衝材を揃えなおす修正作業を無くす事が出来ます。つまり時間短縮に繋がるということです。一般的に完成品を作り上げるにはいくつかの工程がありますが「後工程はお客様」というように次の工程へ良い状態で受け渡す事で生産性向上や品質向上に大きく寄与する事が出来ます。ムダな作業となるこの修正作業を無くす事が今後の課題といえます。“品質”を重視する課題2では過去の大会でも多かった化粧箱 身・蓋、中箱のシワを如何に出ないように折るかがポイントです。今大会では特にこの「シワ」について厳しく評価しています。毎回、講評の度に書いていますが、速さも大事ですが、シワが発生しやすい箇所や作業などポイントを絞り改善していく必要があります。そのためには自分にあったやり方を見いだす事が一番の近道です。選手を指導する方は選手の特徴を捉え、それに合ったやり方を選手と共に見いだしてください。また、どのレベルの品質を目指すのかを具体的にすることも大事です。上位選手の中にはシワが出ないようにあえて一工程増やしシワが出ない工夫をされている選手もいます。上位選手ほど速さより品質を重視する傾向が有り、シワの無い製品を作り上げる事を目指している様子を強く感じました。シワが1つでもあれば不良品です。常に安定した品質を作り出せる様に練習していただき、次回大会では更なる質の向上を期待しております。


最後に、頑張って競技に臨まれた選手、ならびに支援者の方々、大変お疲れ様でした。そして大会関係者のみなさまをはじめ、多くのスタッフのおかげで無事に競技を終える事ができました。心より感謝申し上げます。


皆様の今後の活躍を祈念いたします。



■ 参加選手数 45名

■ 協賛企業等

 UCCグループ  
日本パーソネルセンター株式会社

 UCCコーヒー  
プロフェッショナル株式会社

競技課題は、会場に設けられた模擬喫茶店で、来店されたお客様に対して接客サービスを提供するものです。参加選手は3～4人のグループに分かれ、それぞれのグループごとに接客サービスを行います。接客サービスは、1グループにつき2回以上実施することとしています。接客サービスは、「喫茶サービスの流れ」(※)に従い、他の従業員(選手や厨房スタッフなど)と連携・協力しながら行います。

※喫茶サービスの流れ

- ①お客様を席に案内する。
- ②お客様から注文を受ける。
- ③受けた注文を厨房スタッフに伝える。
- ④注文に応じて必要な物を準備する。
- ⑤注文の品をお客様に提供する。
- ⑥テーブルの後片づけをする。



### 金賞受賞者の感想

山下 優香

和歌山県

全国大会は8回目の出場で、前回・前々回と銅賞続きでしたが、今回ついに金賞を受賞することができました。金賞が決まった瞬間は、名前を呼ばれたとき驚きましたが、うれしさのあまり泣いてしまいました。

全国大会に向けて、職場の先輩から「お客様の立場に立って心のこもったサービスをするように」とアドバイスを受けていたので、それを心がけて練習に取り組みました。

大会の競技中は笑顔で接客すること、緊張せずいつも通り楽しむことに注意しました。

実際は、午前の部ではとても緊張していましたが、午後の部では会場の雰囲気にも慣れて緊張がやわらぎました。

今回の大会に向けて、励ましの言葉を母や兄からもらいました。また、職場の方々からも応援いただきました。みんなには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

これから、金賞の名に恥じないように今まで以上に仕事に取り組みたいと思います。



## 講評

主査 小松 邦明

はじめに、選手のみなさんがご家族や所属団体、法人のみなさんと協力して、新型コロナウイルス感染症が拡大するなかでも、十分な体調管理をしながら準備を進め、大会に参加してくださったことに感謝申し上げます。ありがとうございます。お疲れ様でした。

選手のみなさんのお客様に対するサービスの技術は、回数を重ねるごとに向上していると感じます。今後も引き続き地域での取り組みを続けていただきたいと思います。

より良い形でお客様をお迎えするには、お客様に対するサービスはもちろん、従業員が協力し合って気持ちよく働くことが大切です。フロアの従業員同士が協力することはもちろん、厨房にいる従業員も含めて気持ちよく働けることが、お客様に対するサービスの向上につながるはず。従業員の立場に立ってどうしたらお互いに気持ちよく働けるかを考えてみることも、お客様の立場に立つことと同じくらい大切なことだと考えています。競技終了後の講評でもお伝えしましたが、ときにはフロア以外の役割を体験してみると、どうすると協力しやすいかわかることもあると思います。

お客様に対するサービスや従業員との協力の方法や内容に正解はありません。みなさん一人ひとりの能力や適性も異なるはず。喫茶サービスという競技を通じて、自分の素敵な能力や適性を知り、それを活かそうと考えることで、自分にしかできないサービスがわかり、その力を発揮することがより良い結果につながります。そして、それは学校生活や卒業後の仕事、いまの仕事に必ず良い影響を与えます。

最後になりましたが、この競技を実施するにあたり、競技の運営、備品や消耗品の手配、新型コロナウイルス感染症感染防止対策など大会スタッフのみなさまをはじめ多くの関係者の方々にご協力いただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



■ 参加選手数 36名

競技課題は、①配布物の準備、②発送書類の封入、③社内便の仕分けの3課題です。

①配布物の準備は、イベント用の配布物としてチラシ、ポケットティッシュ、付箋を手さげ袋へ入れる作業を行います。単純な作業だけに手際の良さが求められます。

②発送書類の封入は、広報用に全国へ発送する書類の封入作業を行います。封入物の準備作業も含め、キレイに作業された書類は、会社の印象を良くすることにもつながる大切な技能です。作業手順が多いため、効率よく行うための工夫が重要になります。

③社内便の仕分けは、オフィスに送られてきた郵便物を、その宛名を見ながら、部署ごとに仕分ける作業です。郵便物の中には、氏名だけで部署名が書かれていないものもありますので、社員名簿を確かめて仕分けていきます。判断力、注意力の持続が必要となります。



技能競技

オフィスアシスタント



### 金賞受賞者の感想

西川 陽規

和歌山県

地方大会を勝ち抜き、今回で6回目の全国大会。初めて出場したのは高校2年生でした。このときは、緊張と会場の雰囲気飲み込まれ競技を思うように進めることができませんでした。

そこで悔しい思いをして来年こそは、全力を出すぞと意気込み、学校で時間さえあれば練習していました。練習した甲斐があり、全国大会にふたたび出場することができたのですが、やはり全国の壁がたかくて上手くできませんでした。紀陽ビジネスサービスに入社し、社会人になった後も挑戦し続けて、ようやく今回の大会で会場の雰囲気になれ、落ち着いて競技に集中することができ自分自身の力を発揮することができました。

結果発表で自分の競技が呼ばれるまでの間、今回はやり切ったと思う気持ちが強く、入賞できたらいいなと思いながら待っていました。いざ自分の競技の発表になり、銅賞、銀賞で名前が呼ばれることがなく諦めていたら金賞で名前が呼ばれて驚きました。今までやってきたことが金賞という結果として残すことができ嬉しいです。

学生時代にアビリンピックのことを教えてもらい、地方大会に出場するきっかけを作ってくれたり、今でも競技課題について相談にのってもらい支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は、アビリンピックで身に着けた経験を活かして、新しい事にも挑戦できたらいいなと思っています。



## 講評

主査 成田 賢司

今大会では前回の競技課題を整理し、①配布物の準備、②発送書類の封入、③社内便の仕分けの3課題としました。課題内容は、①配布物の準備は、イベントで配布するチラシやノベルティなどの準備作業を行います。作業内容がシンプルなものだけにスピードが求められる課題です。②発送書類の封入は、全国の支社へ発送する書類の封入作業を行います。封入物の準備から宛名ラベル貼りまで工程数が多い課題です。③社内便の仕分けは、宛名を参照し部署別での仕分け作業を行います。宛名が氏名のみのもについては社員名簿から所属する部署を調べて仕分けなければなりません。

競技結果は、精度・速度ともに高いスキルを身につけた選手が多く僅差での順位でしたが、3課題ともに安定して高いレベルで課題に取り組むことができている選手が入賞する結果となりました。①配布物の準備では、ミスする選手も少なかったため、作業時間内により多くの成果物を完成させるかがポイントとなりました。②発送書類の封入では、封入物の準備や宛名ラベル貼りなど各工程に時間がかかり完成品までいたらなかった選手が多くみられました。作業状況に合わせた対応力がポイントになったかと思います。③社内便の仕分けでは、仕分けの正確さももちろんですが、瞬間的な判断力や氏名を検索するタイミングなどが結果に影響を与えた印象です。

最後に、オフィスアシスタント競技は、出場選手、選手支援者、大会関係者をはじめ、多くの方々のお力添えを頂き、途中トラブルがありながらも無事終わる事ができましたことを、心より感謝申し上げます。出場選手におかれましては、今回のアビリンピックに向けて培ってきた技能や大会での経験を活かし今後も益々活躍されることを祈念しております。





■ 参加選手数 33名

競技課題は、「表の装飾・編集」、「関数式による表の完成」、「データ処理」及び「グラフ作成」です。「Microsoft Office Professional 2016」の表計算ソフトである「Excel 2016」を使用し、その三大機能である「表計算機能」、「簡易データベース機能」及び「グラフ作成機能」の総合的なスキルを競います。各課題は、あらかじめブックに用意されているので、選手はそれを使用し、各課題の設問に従って表やグラフの作成、集計などを行います。なお、課題作成の順番は特に指定していないので、各自が取り組みやすい課題から行っても良いこととしています。



## 金賞受賞者の感想

石田 雅則

長崎県

出来から考えて「せいぜい良くて銀賞だろう。」と思っていたので、金賞で自分の名前が発表されたときは驚くばかりでした。

最初に出場した第39回大会(愛知)では受賞できず、全国大会におけるレベルの高さを知りました。直後は挫折も考えましたが、当時の講評で言われた「表計算を好きになってください。」という言葉にいろんな意味が含まれているかなと感じるようになり、「次は入賞を目指してみよう！」という思いに切り替わりました。

第41回大会(東京)では銅賞を受賞できましたが、自分の克服すべき課題は応用力と柔軟性でした。問題集などで対策するほか、もっとも不安な柔軟性については競技範囲に含まれていない課題が掲載された問題集を何度も解いて、可能な限り身につけてきました。その過程で、表計算はもっと幅広い計算や処理ができることを知りました。

今大会では課題2の終盤で最も苦戦しました。限られた時間の中で、問題文をいかに正確にとらえ、その解に至るにはどう関数を使うかが「自分の限界」へのチャレンジでした。

今回、金賞を受賞できたことは今後の励みになります。

これから出場される皆様、ぜひとも表計算を好きになってチャレンジされることをおすすめします。

最後に、大会に向けて指導や提案などをくださった支援員の方々、快く送り出してくださった施設の皆様、アビリンピックに関わる皆様、ありがとうございました。今後、さらに先の目標に向かって努力してまいります。



講評

主査 佐藤 京子

昨年に続き、新型コロナウイルスにより様々な影響があった状況下でも、今年も33名の選手が参加されました。皆さんの努力により、回を重ねるごとにレベルも高くなっているようで、昨年よりも制限時間内に全ての課題を完成できた選手も増えたと感じました。

表計算競技は、課題1(表の装飾・編集)、課題2(関数式による表の完成)、課題3(データ処理)、課題4(グラフ作成)の4課題で構成されています。例年と比較すると、課題1で手間取っていた選手が多かったように見受けられました。また、例年と同様に、課題2で苦戦されていた選手が多く、関数の設定に手間取ってしまい、他の課題の作成に十分な時間を割くことができなかつたり、気持ちに余裕を持たず、本来の実力を十分に発揮することができなかった選手も見受けられました。

課題1では、表作成において、書式や数式のコピーに関し、セルの絶対参照/複合参照の理解がポイントとなります。課題2では、どの関数を用いて、どのような順番で引数を設定するかなど、設問からの確に読み取ることが重要なスキルとなります。課題3ではデータベースに関する理解、課題4では、グラフ作成に関する理解が必要となります。つまり、表作成・関数設定・データ処理・グラフ作成については、操作テクニックも大事ですが、適切な結果を得るための考え方、操作手順の組立てが重要になります。さらには、表計算の知識やスキルに加え、設問を的確に把握し、指示文の見落としをししないことも、重要なスキルと言えると思います。このような点を意識して、表やグラフなどの最終形をイメージしながら、日々トレーニングを行うとよいでしょう。

末筆となりましたが、コロナ禍の状況においても、無事終了できましたことは、大会スタッフの方々をはじめ多くの関係者の方々のご尽力の賜物と、深く感謝致しております。また、十分に実力を発揮できず、残念な思いをされた選手の皆さんの努力が次のチャンスへとつながり、さらにレベルアップされることを祈念致しております。



■ 参加選手数 5名

ネイルの基本の技術やアートなどのテクニックを競う競技です。

### 課題1 ネイルケアとカラーリング

爪の長さ、形、表面を整え、キューティクルのお手入れをし、カラーを塗ることで美しく健康な爪をつくります。健康で美しい爪と指を保つためのマニキュアサービスの基本となるネイルケアとカラーリングの技術を競います。

### 課題2 ネイルチップアート

ネイルアートの基本的なテクニックを用いてネイルチップにアートを施します。





## 講評

主査 木村 安気子

ネイル施術の競技はネイルケアとカラーリング、ネイルチップアートの二つの課題で行いました。ソーシャルディスタンスなどの感染対策を取りながら5名の選手が競い合いました。全体の技術レベルが上がってきていることやサロンワークに欠かせないジェルネイルを競技に加えることでサロンワークを意識した課題に今年から変更しました。課題1前半30分のお手入れは爪の長さ形と表面を整え甘皮処理を行い、課題1後半45分のカラーリングは、右手に赤ポリッシュ、左手に白パールのジェルを施して貰いました。基本のネイルケアとポリッシュカラーに関しては、大きな差異はなかったと思いますが、今年から取り入れたジェルカラーに関しては、色ムラや爪回りの塗り残し、表面の厚みなど全体の仕上がりに違いが出たと思います。課題2のチップアートに関しては、昨年からテーマを自由とし説明文を添えて貰いました。競技時間は70分。作品がテーマと作文内容と合っているか、アートの統一性や色合い、作品全体のバランスやデザイン性、仕上がりなどを評価の対象としました。高得点を得た選手は、テーマと合致し、色彩バランスと繊細な筆遣い、デザイン性に優れていました。最終的な仕上げとまとめる力に違いが出たように思います。しかしながら、昨年と比べ、日頃の鍛錬の成果、競技の時間管理、サロンワークの意識レベルが向上していると感じました。総合的に見て、お手入れとポリッシュのカラーリングはレベルアップしたと思います。ジェルに関しては、ムラなく均一に塗る事を意識し更に練習することが重要です。ネイルチップアートはテーマとの合致、繊細なブラシワーク、表現力の強化を心がけると更に良くなると感じました。いつもながら選手の競技に取り組む真摯な姿勢がとても印象的でした。今後も益々の活躍を祈念しています。最後になりましたが、多くの方々のお力添えがあり無事に終了することが出来ましたこと、参加選手をはじめ、モデル関係各所の皆様方のご協力に心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 11名

■ 協賛企業等

 **Adobe** アドビ株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

2020年の愛知大会から写真競技が再開され本大会で3回目となります。回をかさねる毎に競技内容が高いレベルになっています。

内容は以下のとおりです。幕張メッセをパンフレットやホームページ上で紹介することを想定して、同展示場を知らない人が「行ってみたい!」と思うような魅力的な写真を撮影します。これにより、写真撮影における基本的な技術や総合的な構力等を競います。

<撮影内容(被写体)の例>

- ・幕張メッセ外観
- ・幕張メッセエントランス、インフォメーション、カフェ、ショップその他の造形物など



### 金賞受賞者の感想

井門 仁哉

愛媛県

私はデザイン系の専門学校を卒業して写真館に就職し、現在は報道関係の職場に勤めるプロ9年目のカメラマンです。同じく発達障害を持つ妻からの紹介で数年前にアビリンピックの存在を知り他の競技で2度全国大会に出場していたのですが、一度もメダルを獲れたことがなく全国のレベルの高さを痛感していました。「写真撮影」が競技になったと聞いて「これなら絶対いける!」と意気揚々と去年、全国大会に出場しました。しかし緊張や興奮からか自分の技術力を見てほしさが先行してしまい課題に沿わない箇所を出してしまいました。作品自体は好評価でしたが結果は努力賞すらいただけず悔しい思いしました。大会後にSNSで他県の選手から「絶対にあなたが金賞だと思っていた」というメッセージが届くこともありました。今年は「余計な事をしない」を肝に銘じ、落ち着いて冷静に最後まで競技することができました。そして無事に金賞を獲ることができました。最近「SNS映え」という言葉が使われカメラマンはキラキラしたイメージがあるかもしれませんが、私が最初に勤めた写真館は「昭和の体育会系」という言葉がぴったりで、お叱りを受けながらとても厳しく過酷な仕事をたくさんこなし、経験を積んできました。苦しかった修行時代ですがその全てが報われた瞬間でした。しかし私はアビリンピックにおいて日本で終わるつもりはありません。いずれ世界大会に出場し世界一のカメラマンになることを本気で目指しています。そのために必要な努力・技術・経験は全て誰にも負けません。もうすぐプロ10年目、これからもより一層精進していく所存です。



## 講評

主査 村上 光明

昨年度の東京大会からすると参加県のエントリーが増えて来たのは大変嬉しい事です。

今回からは更に競技の内容や撮影技術などレベルは高くなっていました。

競技テーマは、昨年同様に開催会場の「幕張メッセ」内外を多くの人に紹介する為のホームページ掲載写真、パンフレットに掲載する写真です。

選手は、競技前に統一のカメラ機材・PC・画像処理ソフト・プリンターの確認後に競技会場の幕張メッセの撮影ゾーンや禁止ゾーンをロケハンし撮影構想を練っていました。

競技の主な内容は、午前の競技では「会場内外の撮影そして撮影マナー」、午後からの競技は「撮影したデータをPCに取り込む作業」そして、「プリントする写真を選び画像処理ソフトで明るさ・色合い・サイズ調整作業」を行い、最終段階のプリント仕上げで6点を指定サイズにプリントし競技は終了です。

特に今回は障害者ワークフェアが再開になり人物撮影も評価の対象に大きく左右されます。初めて出会う人物に声かけしコミュニケーションをし、表情も出さなければなりません。

現在の職業写真は、撮影後の画像処理も求められます。審査を進める中、プリントまでの工程では僅差でした。

提出された6点のプリントの内容が最終審査に大きく影響しました。メカニクな技術より表現技術に差が出たと思います。

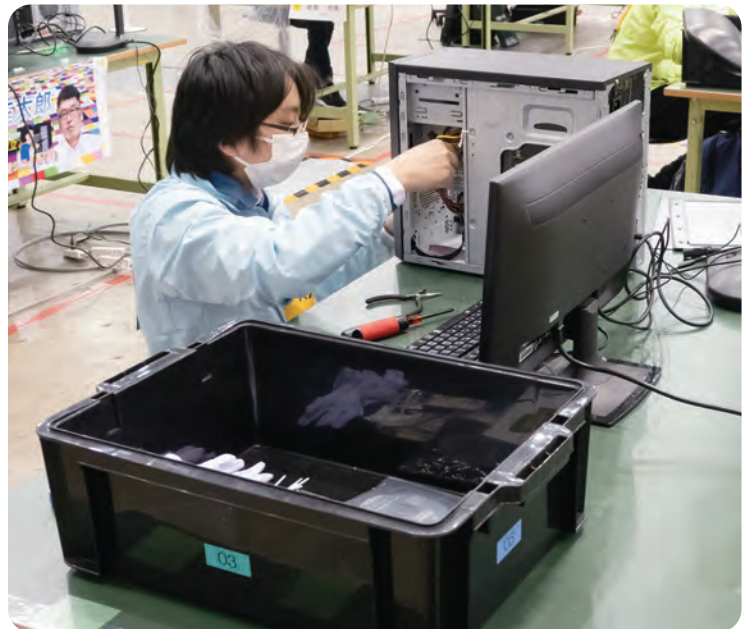
課題テーマは『魅力ある幕張メッセ』です。上位入賞した提出写真は表現技術が特に素晴らしいと審査委員一同が評価していました。

写真は沢山撮ることが上達の近道。最後に選手皆様の熱意と高齢・障害・求職者雇用支援機構のご努力に敬意を表して講評と致します。



■ 参加選手数 7名

パソコン組立では、制限時間の中でデスクトップ型パソコンの中身を組み立て、ソフトウェアのインストールや設定を行い、パソコンとして利用できるようにします。具体的には、まずマザーボードにCPUやメモリーといったパーツを取り付け、次にパソコンケースにマザーボード、電源、ハードディスクといった様々なパーツを順番に設置し、結線していきます。組み立てたパソコンに、OS (Windows10) をインストールし、ネットワークに関する設定をするなど利用できるパソコンに仕上げます。選手の皆さんはハードウェアとソフトウェアの両面から作業を行い、その完成度・的確さや正常に動作するかを競います。



## 金賞受賞者の感想

舘野 裕太郎

神奈川県

今回、アビリンピックへの出場は2回目ですが、まさかという感じでした。金賞に選んでいただきありがとうございます。

出場しようと思ったきっかけは、入社時の面接で大会の存在を紹介して貰った事と、社内で過去の大会でこの競技で銀賞を獲った方がいたという話を聞き、挑戦してみたいと思ったからです。

競技に取り組むことにあたり気を付けた事は、きちんと課題を読むという事です。前回出場した時は、緊張と焦りで課題の内容を読み間違えてしまい、OSのインストール先を間違えて再インストールしなければいけないという手痛いミスをしてしまいました。そのため、練習時は前回の大会の課題内容を振り返り、課題通り行えているかというところを重視して取り組みました。そのような対策を行った事で今回の金賞受賞に繋がったのではないかと思います。

多忙な業務の中で、練習時間を捻出したり、限られた機材の中で出来るだけ競技課題の内容に近い環境を整えてくださったりした職場の皆様にはとても感謝しています。また、今回の経験を今後の業務に生かしたいと思います。本当にありがとうございました。



## 講評

主査 三田地 健二郎

パソコン組立競技は7名の精鋭選手で行われ、日頃培った高度な技能を競い合いました。競技は、午前2時間・午後2時間の計4時間の競技時間の中で、準備された大小様々な各種コンポーネントやパーツを用いてパソコンを組立て、完成したパソコンにソフトウェアをインストールして各種設定をするといった内容でした。

今大会の競技ポイントですが、ハードウェアに関しては、グラフィックボードをCPUとは独立させた通常のオンボード構造としたことにより、マザーボード上のスペースが狭小化され、その他のパーツを要領よく取り外し・取り付けをする必要がありました。CPUクーラーは、取り付け方式がネジ式ではなく構造が複雑なワンタッチ式となり、選手の皆様は構造を確認しながら、慎重に取り付けされていました。SSDはM.2としたため、コンポーネントやネジが小型化し、装着技能の難易度が高くなったと思います。これらが相互に関係して、全体的なバランスを考えた手先の器用さが必要となりました。その他は従来と同様、部品や配線を取り外す際に無理に力を入れていないか、取り付けネジなど細かい部品も含めて正しくもとに戻しているか、ケース内の空気の流れを考慮して配線がまとまっているかなどがポイントになりました。ソフトウェアに関しては、BIOSを設定し、オペレーティングシステム及び各種ドライバ・ユーティリティを順にインストールするものでした。その際に、HDDのパーティションを区切ってデータ領域を確保したり、ネットワークに関する情報を入力したり様々な専門的設定スキルが必要だったと思います。

このようにパソコン組立はハードウェアとソフトウェアの両方の知識・技能が必要となる競技になり、参加した選手全員が高い技能を発揮されていたと思います。

最後になりますが、コロナ禍での対応が必要ななか、選手及び関係者の皆様のご協力をいただいたおかげで無事に競技を終えることができました。心より感謝申し上げます。参加された選手の皆様におかれましては、今後より一層ご活躍されることを祈念いたします。





■ 参加選手数 7名

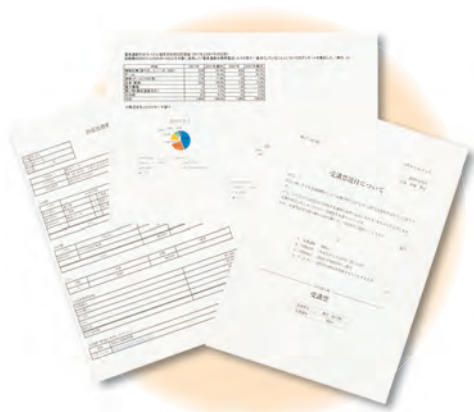
■ 協賛企業等



視覚障害のある選手による競技種目で、競技課題は次の5課題です。

- ◆ Excel のデータから適切な関数を用いて、データを修正すること
- ◆ Excel のデータを加工してグラフを作成してまとめること、Power Point でスライドを作成すること
- ◆ Word の文書の書式を整え、Excel のデータと連携づけること
- ◆ インターネットから情報を入手し、データを加工すること

視覚に障害がある方は、パソコンを利用できるようになったことで、情報へのアクセスが格段に向上し、日常生活や仕事で多くの方が使用しています。この競技では、パソコンの画面情報読み上げソフトや、拡大読書機等の支援機器を活用して、視覚に障害がある方のパソコン操作技能を競います。



### 金賞受賞者の感想

北川 一郎

埼玉県

私は中途での失明であるため、社会復帰を目指して、国立職業リハビリテーションセンターに入所しました。

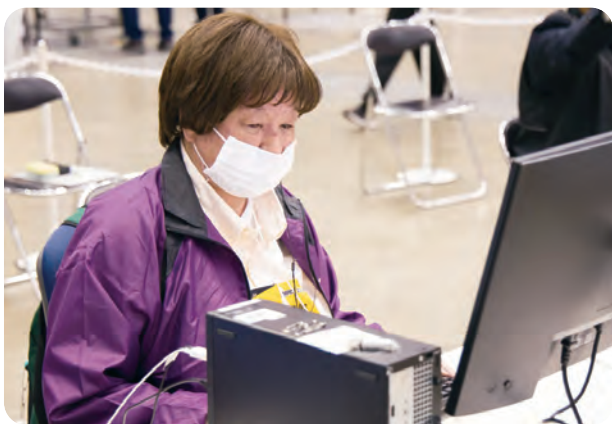
当初は音声でのPC操作で以前に出来ていたことが出来ずに、悩み・苦勞することばかりでしたが、指導員の方々の指導があり、日々出来ることが広がっていくのを実感していました。

そうした中で障害者が自身のスキルを競い合うアビリンピックの存在を知り、復帰への道しるべとするため挑戦を決意しました。

日々の訓練のカリキュラムにアビリンピック対策を設けていただき、納得できるまで事前課題を繰り返し続けていくことで、埼玉代表として全国大会での金賞受賞という結果を得ることができました。

このような素晴らしい結果を残すことが出来たのは偏に周りの方々の温かい支援があったからこそだと強く感じております。指導員の皆様、事業所の職員の皆様、友人、そして何より家族にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

大会を目指される方々には、あきらめずに繰り返し続け、その中で工夫したり、考え続けていてほしいと思います。そうすれば見えなくても観ることが出来るものがあるとお伝えしたいです。



## 講評

主査 石川 充英

今回の課題は、視覚障害者が事務職として実際の業務で使用する頻度が高いものを出題しました。公開課題では、エクセルの関数、ワードの差し込み印刷、パワーポイントの基礎操作を出題しました。さらに本番では、インターネットで検索したデータをエクセルのフォーマットに記載、エクセルでマップグラフを作成し、その内容を分析することを追加して出題しました。

選手のみなさんは、公開課題を通してよく学習されていたと思われます。回答を作成する過程での操作方法はもちろん、課題文を把握しやすくするためにエディタ機能を利用するなど、選手のみなさんの努力や工夫をたくさん確認することができました。

一方、課題文の指示を読み違える、コピーする箇所の選択を間違えるなどのケアレスミスも散見されました。また、他者が操作することを考慮して適切な方法を選択すること、グラフは作成するだけでなく、分析まで意識することが重要であると考えます。

視覚障害者が事務職として業務をおこなう際には、エクセル、ワード、ブラウザ、メールの操作力は大変重要で、そのスキルを向上させる必要があります。

さらに、チャットなどのコミュニケーションツールやブラウザをベースとした基幹システムの利用時には、幅広く高度な操作力が必要となります。しかし、セキュリティが強化されたシステムやネットワークにおいては、視覚障害者が使う画面情報読み上げソフトでは読み上げができないなど、視覚障害者の努力だけでは解決できない事象も増えてきています。

一人でも多くの視覚障害者がその能力を発揮できるよう、企業や社会がスキルアップのための研修受講や合理的配慮、アクセシビリティの保障に関して、理解を示して欲しいと思います。



■ 参加選手数 28名

競技課題は、「アンケートの入力」、「文書修正」及び「帳票等の作成」です。データ入力・修正等の速さと正確さを競います。「アンケートの入力」では、いかにミスなく多くのアンケートを入力できるか、「ワープロ文書の修正」では、いかに早くミスを発見して正確に修正できるか、そして「帳票の作成」では、文字・数字の入力だけでなく数式や書式設定も使って体裁の整った帳票等を作成できるかを競います。



### 金賞受賞者の感想

城間 大雅

大阪府

今大会がアビリンピック初出場となりました。全国大会優勝まで辿り着けたことを大変嬉しく思います。7月の大阪大会までは限られた時間で自己採点・問題作成で練習を行っていましたが、全国大会へ出場する際にコーチを請負ってくださった同僚達がいたこと、練習を平日ほぼ毎日続ける環境を作ってもらえたからこそ今回の優勝が実現したのだと思います。

全国大会の事前公表課題をベースに問題用紙及びアンケート入力における Excel 入力フォームの作成や、キーボード・マウスといった機材の準備など、可能な限り本番に近い状態での練習環境を構築できたことも大きいと感じました。また、前述の同僚達には問題作成のみならず、練習を観察したうえでの改善点の提案・緊張状態が続く際の対処法を教えていただいたりする等、自分一人の主観ではなく客観的な意見があったことが1人で練習していた頃より大幅に成長できた要因だと考えます。問題作成につきましては自身の苦手部分に重点を置いた問題の作成や、コーチである同僚と高齢・障害・求職者雇用支援機構を訪問して、前年度の優勝者の作品を閲覧、それをベースとしてより本番を意識した問題を作りました。アンケート入力の練習では見直しする項目を徐々に減らし、最終的には全ての項目のチェックをせずとも高い精度を維持すること念頭に練習を続けました。文章校正では全ページを修正しきれないことがあったので、まずは全てチェックすること、その上で見直しをすることを強く意識しました。帳票作成は見直しの時間に若干余裕があったので、項目のミスタイプや体裁の設定ミスを残った時間で潰すことを欠かさず行いました。私は、入社する前はタイピングも苦手でしたが、業務の空き時間での練習や、実技での改善を通して業務に活かせるほど上達することができました。目標があること・それに向けての鍛錬は単なる練習以上に得るものが多いと実感しました。この文章が、同僚や読んでいただいた方々のアビリンピックに興味を持つきっかけ、また挑戦するきっかけになれば嬉しいです。



## 講評

主査 落合 昇

平成17年の第28回山口大会から始まった本競技は、通算15回目を数えます。今回は、北は青森、南は沖縄まで各都道府県から、28選手にご参加いただきました。昨年よりも多くの選手に参加いただけたこと、嬉しく思います。

競技は、前回大会同様、アンケート入力、文書修正、帳票等作成の3課題各30分により実施されました。各選手の技術レベルが上がってきており、誰かが突出しているというより競技全体としてのレベルが高くなってきていると感じています。

課題1については、全体として入力の速度と正確性が増しており、仕事として働く上でも基盤となる技術だと考えていますので非常に良い傾向だと思えます。課題2については、難易度は変えておりませんが、やはり30分という長丁場の中での集中力をいかに持続させるかがポイントとなったように感じます。慌てずに、しっかりと違和感を感じ取れるか、是非、皆さんりの方法で修正力を上げ、その正確性をより高めていただきたいと思います。課題3については、皆さんの表計算に関するスキルも高まっている様子で、高得点の選手が多く、これだけの技術があれば様々な仕事に応用できるだろうと感じました。競技レベルが上がったことは選手の皆さんだけでなく、指導者の方も熱心にご指導されているのだろうと感じるものがありました。

現在、パソコンを利用した作業はより求められていますし、これだけの技術を有する選手が多く見られたことは非常に喜ばしく思います。今後も、この競技で培った能力が社会で活かせる機会はたくさんあると思います。これからも、入力の正確さ、スピード、そしてミスを見逃さない力を身に着けて、社会へ羽ばたいていただきたいと思います。

末筆になりますが、ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後のより一層のご活躍を期待しております。



# 縫製

■ 参加選手数 8名

■ 協賛企業等

**JUKI** JUKI販売株式会社

競技課題は、「エプロンの縫製」です。選手には、裁断された9枚のパーツ(土台1枚、ポケット2枚、見返し1枚、肩ひも2枚、腰ひも2枚、フリル1枚)が配布され、ミシン、アイロン、はさみ、目打ちなどの道具を使用して製作します。製作するにあたっては、各パーツに必要な「アイロンがけ」や「ミシン縫い」の作業を行ったあと、これらのパーツをミシン操作で組み合わせます。最後に仕上げの「アイロンがけ」を行って完成となります。布地の表と裏を正しく見極め、アイロンを使って縫い代折り巾やくせとり、ミシンの正確な縫い巾等、各工程に合わせた適切な技術・判断力がが必要です。

技能競技  
縫製





講評

主査 鈴木 皆子

第42回大会は千葉幕張メッセにて3年ぶりの有観客で開催されました。

競技は、地方大会を勝ち抜いた、8名の参加選手のうち初参加者4名、再挑戦の方が4名と今までになく少人数でした。競技は、10時から開始し、昼休憩を挟み15時までの合計4時間で競い、選手全員が時間に完成することができました。初めての参加者は、緊張感いっぱいながら練習の成果を發揮しようとする姿が見受けられました。しかしながら作業が進むにつれ、緊張のあまり落ち着きが無くなり、手が震えたり、ミスが競技に出たりと苦戦しながら対応しており、肩、腰の紐の付け方や生地の裏表に問題が出ても気が付かないほどの緊張感が続いていました。再挑戦者は淡々と各自が事前に考え作り上げた工程を進めていました。参加回数の少ない選手は特に仕様書の再確認と、ポイントとなるダーツ先の消し方、フリルのギャザーよせの縫いの仕方とミシンの調整、アイロン操作によるくせ取り作業、いせこみ作業、縫い代の潰し方等を繰り返し練習することが必要だと感じました。参加された皆様をお願いしたいこととしては、後輩やこれからアビリンピックへ挑戦する方へ前述について伝達をお願い致します。今回の結果、銀賞1名銅賞1名、努力賞1名、初参加者と再参加者が入賞しました。

選手が受賞できたことは、選手自身の頑張りと指導された方、周りの方のお力添えをいただいたおかげの賜物だと感じております。この経験を活かしいろいろな場面に於いても挑戦する気持ちを持って頑張ってください。今回は個人講評が再開され選手、指導員介助者との会話が出来、選手、指導員なりの反省が聞けました。多くの方が目標に向かって輝き、就労の道が広がる本大会に関わることが出来た事を御礼申し上げます。最後に競技スタッフ、大会事務局及び関係者の方々のおかげで競技が円滑に進行出来ました事を心より感謝申し上げます。



■ 参加選手数 10名



競技課題は「蓋付き小箱」の製作です。家具製作には、「挽く」、「欠き取る」、「掘る」または「削る」等の基本的作業があります。この作業には、「のこぎり」「のみ」「かんな」などの手工具を使用しますが、これらを使いこなすことは、機械作業ではできないような完成度の高い、洗練された製品を作り出すことを可能とします。競技課題のうち、箱本体は、部材の長さを木づくりし、図面を見ながら墨付けを行い、のこぎり・のみで組み手を加工し、仮組み・目違い払い(板を組み合わせてできる段差をかんなで削る作業)を行った後、底板取り付け用の段欠き(角材や板材の一边を直角に欠きとること)をします。そして、仕上げ削りの後、釘と接着剤で組み立てて、一部ダボを埋めてから、全体をかんなで削って完成させます。また、箱の蓋は、部材を仕上げ、面取り後に、留加工(棒材を45°にのこ挽きし、かんなで削る)を施し、全体を平紐で巻いて組み立てます。表裏の目違いを払った後、本体との位置決めを行うための棧を内側に打って完成となります。



### 金賞受賞者の感想

松内 宏幸

熊本県

「金賞は 熊本県 松内宏幸さんです！」表彰式で、わたしの名前が呼ばれました。すると周りの熊本県選手団のみんなから「わーっ」という声があがりました。わたしは真っ直ぐに表彰台に向かって歩きました。「やった！」と思いました。

わたしがアビリンピックを知ったのは、大津支援学校に通っていた時です。今、通っている多機能型事業所カサ・チコに実習に行った先輩に「カサ・チコからアビリンピックの全国大会や世界大会に出た人がいる」ということを聞きました。木工に興味があったので、わたしもやってみたいと思いました。

カサ・チコに通いだしてから練習を始めました。指導いただいた三山所長は選手を何人も育てた方でとても熱心です。道具の名前、使い方、使う時の姿勢など丁寧に教えていただき、一つ一つ手順を覚えました。同じところを何度も間違えて注意されることもありましたが、カサ・チコの他の選手と一緒に、暑い中、汗をかきながら練習しました。

3か月練習して、県大会に出場することを10年近く繰り返しました。ようやく、昨年全国大会に出場でき、今年は金賞をいただきました。講評では「今後もしっかり練習してね」と言われましたので、これからも技術を磨いていきたいと思います。

ご指導いただいた三山所長、応援してくれたカサ・チコのみんな、大会を運営いただいた関係者の皆様にお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。



## 講評

主査 小林 正道

木工競技は、11月5日(土)快晴の中、千葉県幕張メッセで開催されました。コロナ禍での開催のため、開会式はライブ配信で、閉会式は、各競技メダル受賞者の紹介を主体に実施されました。競技の様子は、動画配信されました。会場入口では、コロナ感染拡大を防ぐため検温・手のアルコール消毒やマスク着用のチェックを行っていました。

木工競技は、10名の参加で行われ、競技課題は、蓋付き木箱の製作です。競技標準時間は、5時間とし、さらに1時間後を打ち切り時間と設定しています。当日は、午前9時に開始し、昼食休憩をはさみ終了が15時(延長終了時間16時)で競技を実施しました。

選手は、手際良く蓋部材の仕上げ・留切り・面取りの順に作業を進め組み立てました。蓋組み立てから始めるのは、接着剤を乾かし固着させるためです。次に本体の長手部材・妻手部材(短手)の木取りを行い、三枚組接ぎ墨付け・加工・底板段欠き(作業補助員)・ボール盤による穴あけ・仕上げ・組み立て・底板の削り込み・釘止めを手際良くこなしていました。2名の選手が延長時間に入りましたが、打ち切り時間前には課題を提出することが出来ました。

提出課題の評価は、加工精度、できばえ、作業時間、作業態度の4項目で行い、減点数の少ない方が上位となります。競技の結果は、金賞1名、銀賞3名、銅賞1名、努力賞1名でした。金賞に近い方が例年になく多く、このことは、各選手個々の技術レベルが確実に向上して来ています。

コロナ蔓延防止施策に伴い練習にも支障があったと思いますが、選手と指導者が一体となり練習を重ねた結果が表れていました。今年は、初参加の方が多い中、メダルの数が増えたことは、指導者の指導技術力向上と選手の習得能力が飛躍したためでしょう。来年、大会参加を希望されている方を指導される方は、「木材加工系実技教科書」(実教出版)などを参考にされると良いと思います。日頃から研鑽を積まれ競技大会に参加された選手の皆様及びサポートされた方々に敬意を表します。





### 物流ワーク



倉庫にストックしてある品物を、指示書のとおり選び出して、折りたたみコンテナに詰めていきます。さらに納品された品物が、伝票通りであるか確認し、店内の棚に補充します。商品の向きや置き方にも気を配り、正確さと速さを競います。



### 講評

技能デモンストレーション実施スタッフ 中山 秀之

今回全国アビリンピック大会のデモンストレーション(物流ワーク競技)を国立職業リハビリテーションセンター職域開発課で担当させていただきました。デモンストレーションの内容は埼玉県の方大会で行っている小売物流ワーク競技の内容2課題(ピッキング作業・商品陳列作業)と当センター職業実務科で行っている訓練内容の紹介という形で行いました。多くの皆様に関心を持って見学していただき誠にありがとうございました。

小売物流ワーク競技は、埼玉県の方大会において5年前から独自競技として実施しており、県内のスーパーマーケット等小売店で就業されている方や特別支援学校の在校生等が参加しています。ピッキング作業においては、伝票のとおり正確にピッキングすることに加えて作業のスピードが求められます。商品陳列作業については正しい場所に置くという正確性と、お客様が手にしやすいよう商品名を表にして列を揃えきれいに手早く並べることをポイントとしています。

今後はより実践的な競技となるような工夫も求められると思われれます。例えば商品陳列作業は、お客様のいる中で迷惑にならないよう作業ができるか。作業中にお客様からの問い合わせ等に対応できるか等々。そういった課題にしていくことがこの競技の実用性につながるのではないかと考えております。

また今回は普段の職業訓練で行っている内容も紹介させていただきました。担当した訓練生は自分に与えられた役割を、それぞれの立場でしっかりとこなすことができているようです。ピッキング作業を行う倉庫担当、商品陳列作業を行う店舗担当、その両者間での商品の受け渡し等、今回みなさんの前で実演させていただいたことでこの経験以後の職業訓練では、ついうっかりミスをしてしまう訓練生が落ち着いて作業できたり、声の小さな訓練生が大きな声で確認作業ができるようになったりと、訓練生にとっても、とてもいい経験になりました。



## OA機器等メンテナンス



競技は次の2課題によって行われます。

### 課題① リファイニング(清掃)作業

4名1組のチームで、メンバーが協力しながら、1台の中古コピー機を新品同様のクオリティを目指し、綺麗に磨き上げていきます。制限時間内に日本一綺麗な中古コピー機に完成させられるかを競います。

### 課題② リペア(修理)作業

コピー機内部にあるユニットを分解し、故障の原因を探しながら、劣化・破損した部品を修理交換します。修理したユニットが正常に動作することを確認し、丁寧に梱包するまでの時間を競います。



## 講評

技能デモンストレーション実施スタッフ 山本 憲二

全国アビリンピックデモンストレーション企業として、昨年に引き続き2度目の参加となりました。昨年は無観客での開催でしたが、今年は念願の有観客での開催となり、弊社知的障害者の勇姿や熱い思いを直に感じていただけたことを、非常に嬉しく思っています。

競技課題である「中古コピー機のリファイニング作業」および「リペア作業」は、集中力と高度な技術力が求められる作業であり、当日は自ら参加を志願した9名が出場しました。「中古コピー機のリファイニング作業」では、チームリーダーを中心に、1台の中古コピー機を様々な道具を駆使し、隅々まで徹底的に清掃を行い、制限時間内にいかにキレイに磨き上げられるかを競いました。「日本一キレイを目指した中古OA機器を創ろう」を合言葉としている私たちにとって、当日は個々が持っている力を存分に発揮し、非常に高品質な中古コピー機が完成しました。

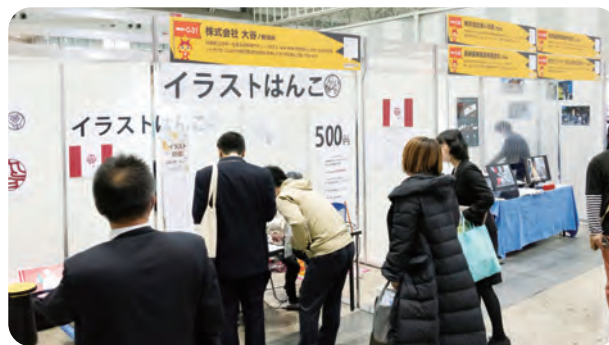
「リペア作業」は、常に【完璧】が求められる非常に高度で細かい作業です。コピー機内部にあるユニットを、数十種類の大小様々な形のネジやパーツを外して分解します。マニュアルを見ることなく、各自の判断で必要な部品を新品と交換して、問題なく使用できる状態に仕上げるまでを、どれだけ迅速に且つ正確に修理できるかを競いました。競技者も緊張の中、いつも以上の実力を発揮し、最高の技術を披露してくれました。

今回のアビリンピックを通じて、弊社の【職人】と呼ばれる知的障害者の活躍を、直に見ていただけたことは、「障がい者の仕事ぶりを世の中へ拡める」という企業理念で事業活動を行っている弊社にとって、貴重な経験となりました。このような機会を再びいただけましたことに、心より感謝申し上げますと共に、一人でも多くの障がい者が雇用される世の中を願います。



展示ホール11で開催された障害者ワークフェア2022では、93の企業や支援機関、特別支援学校等による展示や実演、販売等が行われ、多くの来場者で賑わいました。

### 職場紹介エリア



### 就労支援エリア



# 2022 ～働く障害者を応援する仲間の集い～

## 能力開発エリア



## 福祉車両コーナー



## 補助犬コーナー



## アビリスの店



## (独)高齡・障害・求職者雇用支援機構コーナー



## ステージイベント



障害者ワークフェア



### 表彰



講評



閉  
会  
式



金賞受賞者



メダル

金賞



銀賞



銅賞



参加記念品

